

研究 テーマ	新学習指導要領及び学校教育指導方針に即した授業の取り組みと児童の関心、気付きを高める指導の在り方 ～第1学年「こうえんにいこう」の学習を通して～
-----------	---

日立市大みか小学校

1 テーマについて

このテーマは、学習指導要領の内容(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる」ウ、地域への愛着と(4)「公共物や公共施設を利用する」エ、公共の意識とマナーの二点に関するものとして設定した。改訂の趣旨の理由の一つとして、学習活動が体験で終わっていること、また活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分行われていないことが多かったことを踏まえ、ここでは、様々な側面からの知的な気付きを促す手だてや、自発的活動を誘発する発問の仕方を重点に置いた上で、児童が学区内にある公園に対して関心意欲を高め、そこでの体験を質的に高い気付きへと導くことを目標とした。また、それに伴う成果や課題とは何かについて触れていきたい。

本校は、日立市の南部に位置し、学区には公園を始め、商店街、駅、大学など様々な施設があり、生活科の学習で児童がより興味を持ちやすい環境にある。特に、日立製作所大甕工場とは、1年生の秋の校外学習において、事業所内の神社が行程に入っており、児童はそこでどんぐりを拾い、学校へ帰って木の実のおもちゃを作るなど、毎年交流もさせて頂いている。今回訪れる古坊地公園は、学区で一番大きな公園であるだけでなく、地域の偉人「三代芳松」の銅像や、古くから使われている灯台など、先人の足跡を間近にたどることができる場所でもある。生活科だけでなく、社会科や総合的な学習の時間にも何度か訪れる機会のある、本校児童にとってもなじみの深い場所である。

今回は、小学校に入学した児童が学校生活に慣れ、通学路を覚えたり、学校内を探検したりすることを通じて、徐々に校内から校外の周りの公共施設にも興味を持ち始めた時期に、探検を通じて地域の人々や自然との関わりを深め、遊びや生活の幅を広げるという経験を第一の目標としたい。それだけでなく、探検へ向けての計画を話し合ったり、様々な観点から公園を調べたり、それをもとに自分の言葉で公園探検の感想を話し合ったりする交流の機会を多く設けることで、活動が受動的であったり、あるいは単なる経験として終わらせるのではなく、人と関わることの楽しさがわかり、多くの人と進んで交流しようとする力が育つのではないかと考える。

また、そうした話し合いの機会を通じて、公園でどんな遊びをするか、友達と折り合いながら楽しく遊ぶにはどうすればよいかなどの遊びの工夫や、公園へ来ている人達へはどんな態度で接するか、公園の施設を使うときに気をつけることなど公共のマナーにも目を向けさせ、自主的に活動できる支援をしていくことも念頭において学習を進めることにした。

2 単元 こうえんにいこう

3 単元の目標

- ① 身近にある公園等で公共施設・公共物を利用したり、自然にふれたりしながら、友達と仲良く遊ぶ。
(関心・意欲・態度)
- ② 自分たちで工夫したり、ルールを考えたりして楽しく遊ぶことができる。(思考・判断)
- ③ 公園には、自分たち以外にも利用者がいることや、仲良く気持ちよく遊ぶためのルールがあることに気付きしている。(気付き)

4 単元設定に当たって

本単元は、児童が公共施設を安全に正しく利用するとともに、公園で出会う地域の人や自然などとの関わりを深め、遊びや生活を広げることができるようにすることを目標とする。その目標に迫るため、児童が学校から地域の公園へと関心を広げ、「探検したい」、「友達と仲良く遊びたい」という意欲を高められるよう、事前に話し合いを深めてから実際の体験を行うようにしたい。

本学級の児童は、「さあ がっこうたんけんだ」を通して、いろいろな学校の施設や先生、上級生、友達などに関わり、活動空間が広がるとともに、学校生活をより楽しむようになってきている。「おおきくなあれ」では、アサガオを育て、その生長を観察したり、続けて世話をしていくことの大切さにも気付いたりすることができた。そうした経験を踏まえた上で、児童の生活範囲を学校から学校外へと無理なく広げられるよう、通学路にある施設に目を向けさせ、話し合う活動を行った上で、学区内の公園へと関心をつなげ、広げていこうと考えた。公園についての意識調査では、知っていることとして「古房地公園」をはじめとした「まえはら公園」「南川尻公園」「かみのどう公園」などの公園名や、公園にある遊具、水飲み場、トイレなどの公共施設を挙げた児童も多かった。しかし、遊び場としての認識はあるものの、公園を利用するいろいろな人の存在や、公共施設を使うためのルールなどを意識して遊んでいる子は少ないと思われる。この単元で、地域の人々や自然に触れることにより、今まで意識していなかった公園が、遊んで楽しい場所であるだけでなく、地域の公共施設としてルールを守りながら利用する場所としてとらえられるようにしたい。

そこで、本単元では、公園の様子を拡大した写真を使って視覚的にイメージし、そのイメージをもとに、公園にある施設を使って、楽しく遊ぼうとする意欲を高め、様々なアイデアを出し合って遊びの計画を立てるようにしたい。その際、自分たちより小さな子や、地域のお年寄りなど、自分たちの他に公園を利用しに来る人がいた場合の対応を考えたり、友達と仲良く遊ぶための約束やルールを話し合ったりして、公園への理解や気付きを深めたい。

4 指導と評価の計画

時	学 習 活 動	評 価 の 観 点 (◎は中心評価)		
		関心・意欲・態度	思考・判断	気付き
1 (本時)	通学路の様子や公園での遊びについて話し合う。	◎通学路の様子に興味をもち、みんなで楽しめる場所を見つけようとしている。	◎通学路で発見したことや公園について知っていることについて意見交換をすることができる。	◎自分が通っている通学路の様子について気付いている。
2	遊びの計画を立てたり、準備をしたりする。	○公園での遊びに興味をもち、それについて話したり、準備しようとしている。	○公園に行くための安全な方法や約束を考えて友達と相談することができる。	◎公園には自分たち以外にも利用者がいることや、仲良く遊ぶためのルールに気付くことができる。
3 4 5	公園で探検したり、遊んだりする。	○安全やマナーに気をつけて、楽しく遊ぼうとしている。	◎自分たちで工夫したり、ルールを考えたりして楽しく遊ぶことができる。	○公園には様々な遊具などの施設や自然、訪れる人がいることに気付いている。
6	遊んだことを発表する。	◎探検して分かったことや遊んだことを進んで発表しようとしている。	○公園探検のまとめや感想を、文や絵で工夫して表現することができる。	○友だちの発表のよさに気付くことができる。

6 本時の展開

(1) 目 標

公園でできる遊びを考えたり，公園でのマナーを話し合ったりすることができる。

(2) 準備・資料

掲示用写真

(3) 展開

学習活動・内容	教師の活動・支援	評価 (◎は中心評価)
1 通学路で発見したものや施設について紹介する。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 こぼうちこうえんで、あそぶけいかくをたてよう。 3 公園について話し合う。 (1)公園にある施設について話し合う。 ・遊具・灯台・広場 ・トイレ・ベンチ ・草むら・松の木 (2)公園でできそうな遊びについて話し合う。 ・虫をつかまえたくな。 ・まつぼっくりを拾って競争したいな。 ・鬼ごっこをしたいな。 (3)公園の利用のしかたについて話し合う。 ・小さな子がいたとき ・お年寄りがいたとき ・トイレの利用のしかた 4 本時の学習を振り返り，次時の活動について知る。	・学校の行き帰りに発見したものを，聞いている人に分かるように発表している児童を賞賛し，紹介した施設の中に公園が出れば本時の学習へとつなげていく。 ・写真を提示し，公園内を散歩した時の様子を想起させ，本時学習の意欲付けとしたい。 ・めあてや活動を掲示し，内容が順序立てて理解できるようにする。 ・楽しい掲示にすることで，児童の活動への意欲を高め，その気持ちを大事にしながら課題に取り組ませたい。 ・公園を利用する人たちのために，楽しく遊んだり，くつろいだりできる施設が置かれていることに気付かせたい。 ・校内ではできない，公園の施設や自然を利用した，やってみたい遊びを自由に述べさせたい。 ・遊びの種類によって，人数が多い方が楽しい遊びや，少人数でも楽しい遊びがあることに気づけるよう助言する。 ・遊びが思いつかない児童には，写真を見せながら，どんな遊びができそうか一緒に考え，意欲を高めていきたい。 ・仲良く順番を守るなど，グループでの約束のほか，公園を利用するいろいろな立場の人たちがいることを想起させ，その人たちに親切に礼儀正しく振舞うことや，施設をきれいに使うことの大切さにも触れていきたい。 ・楽しく活動に参加できたか挙手し，学習の振り返りとしたい。 ・グループ作りをすることを知らせ，次時への関心を高めたい。	・公園でしたい遊びを考え，発表することができたか。 (観察・発表) ◎公園でのマナーについて話し合うことができたか。 (発表・観察)

7 成果と課題

実際に公園探検に向けて話し合った結果、草むらを利用した虫取り、広場で行うボール遊び、まつぼっくり拾い、すべり台鬼、ぶらんこ鬼、砂遊び、芝滑りなど、様々な遊びが出てきた。友達同士、仲良く遊ぶルールとして「けんかをしない。」「遊具は順番につかう。」「歩くときは、車に気をつける。」など、必要なルールを熱心に話し合う姿が見られた。また、公園を利用する他の人たちに対して、はじめは意識が薄かったが、「小さい子が公園に来ていたらどうする?」と投げかけると、「ゆずってあげる。」「一緒に遊んであげる。」など、状況に応じた対応を進んで発表する姿が見られ、公園で楽しく遊びたいという期待や意欲が高まっている様子がうかがえた。

公園では、どのグループも納得するまで話し合いをしたこともあり、準備を忘れることなく、仲良くあそぶことができ(資料①)、事後の反省もほとんどの児童が楽しく遊べたと答えていた(資料②)。

これからの課題であるが、話し合いの時に発言する児童がだいたい決まってしまうこと、一部自分の意見を言わずに友達に合わせているだけの子がいること、交流の仕方を変えていく必要があると思う。

どの子も自分の意見を言える環境をつくること、交流の機会を多くつくることを念頭に置き、より充実した生活科の授業を行えるように努力していきたい。

8 資料

(資料①)



(資料②)

